



## 「心と行為の一致」

校長 千秋 久宣

以前、こんなフレーズをあるCMの中で聞いたことがありました。

「心は見ることはできませんが、心づかいは見ることができます。」

どんなに心に思っている、行為として表さなければそれは相手には伝わりません。例えば、感謝の気持ちがあっても、「ありがとうございました」の一言がなければ、なかなか気持ちが伝わりにくいでしょうし、謝罪の気持ちがあっても、頭を下げるだけで、「ごめんなさい」とか「すいませんでした」の一言があるのとないのとでは、相手に十分な気持ちは伝わりにくいでしょう。

今日は、宮澤章二さんという人が書いた「行為の意味」という詩を紹介します。もし、よかったら声に出して読んでみてください。

### 「行為の意味」

宮澤章二

あなたの心はどんな形ですかと人に聞かれても答えようがない  
自分にも他人にも心は見えないけれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに心はだれにもみえないけれど ころづかいは見えるのだ  
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の思いは見えないけれど 思いやりはだれにでも見える  
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心があたたかい行為になり やさしい思いがやさしい行為になるとき  
「心」も「思い」も初めて美しく生きる  
それは 人が人として生きることだ

自分の「思い」は、積極的な行為によって初めて意味あるものになってくると思います。ただそうは言っても、「思い」を「行為」にして表すことは、恥ずかしかったり、勇気が必要だったりしますね。あいさつも最初は、勇気がいったのではないかと思います。しかし、初めて声に出した時、「あいさつができた」という実感が生まれたのではないのでしょうか。心に思っているやさしい気持ちを「行為」として積極的に表してみましよう。その時、一歩成長することができると思いますよ。そうすることで、人はあなたをきっと、見直すことでしょう。

